

令和3年度
特別展



かく、小さく、美しい…



たま

私たちを
魅了する
たま
とは



たま



違う漢字でどれも「たま」。たまって一体なんだらう?

考古学の博物館
富山県埋蔵文化財センター

▲富山県

あいさつ

あいさつ

目 次

「珠」「玉」「球」。どれも違う漢字ですが、どれも「たま」と読みます。私たちは、はるか昔から丸く、小さく、美しい「たま」に魅力を感じ、時には作り、時には遊び、時には祈り、時には大切な人に贈ってきました。

富山県をはじめとする北陸地方は、玉の材料となるヒスイや緑色凝灰岩が豊富にとれる、めぐまれた地域です。この特徴を生かした玉作りが縄文時代に始まり、硬い石に孔を開け、磨いて玉にする技術が古墳時代にまで受け継がれていきました。富山県で作られた玉は全国に運ばれ、当時の人々にも富山の「特産品」として知られていましたでしょう。

本特別展では、縄文時代から現代までの「たま」にまつわる出土品を展示しています。玉が持つ丸く、小さく、美しい魅力だけでなく、玉に秘められた神秘性や呪術性、くらしやあそびの中に隠れている「たま」を探しに行きます。この機会により多くの方々にご覧いただき、「たま」を通じて埋蔵文化財に親しんでいただければ幸いです。

最後になりましたが、資料の借用や出品等でご協力いただいた関係各位に、厚く御礼申し上げます。

令和3年10月8日

富山県埋蔵文化財センター

所長 河西 健一

主な参考文献 協力機関・個人

プロローグ 「たま」ってなに? 2

第1章 よそおいのたま 1

縄文時代前期

縄文時代中期

縄文時代後期・晚期

広がるヒスイ

弥生時代

古墳時代

第2章 いのりとまじないのたま 15

死者への祈り

大昔のまじない

第3章 くらしとあそびのたま 24

くらしの中の「たま」

あそびの中の「たま」

プロローグ

「たま」つてなに？

皆さんは「たま」と聞いて、どのようなものを思い浮かべるでしょうか？『広辞苑（第5版）』では、「玉・珠・球」という文字に、①美しい宝石類、②真珠・しらたま、③美しいもの・大切なものの、④まるいもの・球形のもの等とされています（このほかに弾や靈という文字もあります）。丸く、美しいものが「たま」と言えそうです。

考古学では、磨き、紐を通す孔をあけた、身に着ける道具を「たま」とい、日本書紀等の古典からの引用で主に「玉」という文字を使います。

ここには皆さんの人生の中で、一度は魅了されたであろう「たま」を並べています。どのような思い出があるでしょうか？



よそおいのたま

富山県は古くから玉作りが盛んな地域でした。縄文時代前期の玦状耳飾に始まり、中期にはヒスイを加工する技術を身に付け、全国的な玉の名産地になりました。弥生時代を経て、古墳時代に玉作りが廃れるまでに、いろいろな玉を作つてきました。

縄文時代前期

富山県で最初に作られた玉は、中央に大きな孔があき、その孔から外側に向かって切り欠きが入った耳飾りです。これを玦状耳飾といつて、北陸周辺でよく作られ、富山県では極楽寺遺跡や明石A遺跡が玉作り遺跡として有名です（そのルーツは大陸にあるという説が、近年有力視されています）。

また、動物の骨や歯牙で作られた玉が、縄文時代前期の貝塚から出土します。陸の動物の大歯やサメの歯を加工して作られたものを、特に牙玉といいます。勾玉の形のルーツという説もあります。



縄文時代前期の女性のよそおい
(令和3年度 博物館実習生作成)

縄文時代前期の女性は、耳たぶに穴を開け、玦状耳飾を装着していました。玦状耳飾の重さもあって、耳たぶが伸びていたと考えられます。長髪を束ねているのは動物の骨から作ったヘアピンで、根本に刻みを入れています。昔々から人間はおしゃれだったことがわかります。



明石A遺跡出土玉類（朝日町教育委員会所蔵）

朝日町／縄文時代早期～前期前葉。朝日町のヒスイ海岸近くにある遺跡。

1～8：玦状耳飾未成品、9：玦状耳飾



極楽寺遺跡出土玉類

上市町／縄文時代早期～前期前葉。玦状耳飾の製作遺跡として有名で、その製作工程も復元されている。

1・2：三角形垂飾、3：管玉、4：丸玉、5：垂飾未成品、
6・7：勾玉・未成品、8～28：玦状耳飾未成品。



小竹貝塚出土ヒスイ垂飾（未成品）

県内最古級のヒスイの玉。



小竹貝塚出土玉類

富山市 / 縄文時代前期後葉。5は未成品。20は玦状耳飾と同じく大陸にルーツがあるとされる。

1～5：玦状耳飾、6～13：管玉、14～18：丸玉、19：垂飾、20：璜状石製品



上久津呂中堅遺跡出土玉類

氷見市 / 縄文時代早期～後期。県内最古の貝塚や谷部から玉類が出土している。5は滑石の色や質感が変わった部分をうまく使って、サメの歯のエナメル質と歯根を表現しているおもしろいもの。

1：丸玉（ヒスイ）、2・3：垂飾（滑石）、4・5：垂飾（滑石）、6：大珠未完成（ヒスイ）、7：璜状石製品（滑石）、8・9：玦状耳飾（滑石）、10・11：骨玉（サメ類椎骨）、12～18：牙玉（サメ・クマ）、19・20：玦状耳飾（滑石）、21：垂飾（滑石）、22：璜状石製品（滑石）。



柳田遺跡出土玉類

朝日町 / 縄文時代前期。8は後期～晩期のもの。

1～6：玦状耳飾、7：垂飾、8：丸玉（ヒスイ）



吉峰遺跡出土玉類

立山町 / 縄文時代前期。7・8は破損したものを再加工して玉にしたもの。

1・2・7・8：玦状耳飾、3・4：丸玉、5：箇状垂飾、6：垂飾

縄文時代中期

ヒスイ海岸の玉作り

ヒスイの加工は縄文時代前期後葉にはすでに始まっています。小竹貝塚で県内最古のヒスイの垂飾が出土しています。

このヒスイが採集されたと考えられる場所が、朝日町東部の通称「ヒスイ海岸」と呼ばれる宮崎・境海岸です。東西約4kmの砾浜で、現在でも糸魚川市から流れてきたヒスイが拾えることで有名です。

中期前葉になると、この海岸を望む丘陵で、ヒスイの玉作りが始まります。馬場山G遺跡はその中でも一番古い遺跡で、海岸に転がる蛇紋岩で磨製石斧を作っていたムラでした。ヒスイの加工はこの石斧作りの技術を応用して始まつたと考えられています。

硬玉製大珠

縄文時代中期中葉になると、大珠と呼ばれる大きさが5cmを超える大型の玉が作られました。白地に緑色の質の良いヒスイで作られ、迫力ある大きさに圧倒されます。

朝日貝塚の「硬玉製大珠」は県内最大の大珠で、国的重要文化財に指定されています。

全国でも最大級のもので、表裏側面を丁寧に整形し、全体を美しく磨いて、中央よりやや上に孔を開けた優品です。

縄文時代中期のよそおい (令和3年度博物館実習生作成)

ヒスイの大珠には不思議な力があり、ムラの行く末を占うとシャーマンが愛用していました参考に、白髪の老年女性で復元しました。



縄文時代後晩期のよそおい (令和3年度博物館実習生作成)

丸玉と勾玉を組み合わせてアクリルセザリーとしました。緑色のヒスイを好んで使い、髪には堅櫛を装着しています。



大きな玉から小さな玉へ

縄文時代後期になると小さな玉を組み合わせ、ネックレスのように玉を連ねたアクリルセザリーが流行り、古墳時代まで続く玉の伝統になります。

ヒスイ海岸周辺の遺跡では、引き続ぎヒスイの玉を作りますが、大珠に代わり、丸玉や勾玉といった小さな玉を主に作ります。この時期の玉作り遺跡は、境A遺跡のほか数か所知られています。この小さい玉は、東北北部から北海道に集中して見つかります。

丸玉

直径5~12mmほどの球状の小型の玉で、中央に孔があげられます。勾玉や垂飾と組み合わせて使用されました。石材はヒスイ、蛇紋岩・滑石等を用います。

大珠と比べてもわかるように、丸玉には濃い緑色のヒスイを使い、小さいながら神秘的な雰囲気があります。

勾玉

勾玉は縄文時代前期からありますが、後期に入るとヒスイでも作られるようになります。弥生時代以降の勾玉と比べ、定型化しておらず、縄文時代の勾玉の面白いところです。

縄文時代後期・晩期



ヒスイ海岸（宮崎・壱海岸）



おうみがわ
青海川ヒスイ峠
新潟県糸魚川市／国指定天然記念物「青海川の硬玉産地及び硬玉岩塊」



朝日貝塚
水見市／縄文時代前期～中期。全国で初めて炉跡がある住居跡が2棟発見され、現在保存舎の中でも見ることができる。

朝日貝塚出土「硬玉製大珠」

水見市／国指定重要文化財。長さ15.95cm、重さ470gを測る国内最大級のヒスイの大珠。白地に緑色がさす、質の良いヒスイを使っている。個人所蔵、当センター寄託品。



馬場山G遺跡出土玉類(右)、5号住居跡(上)

朝日町／縄文時代中期前業。1・2は2号住居、3・4は3号住居、5は4号住居、6は5号住居、7は6号住居出土。6は穿孔途中のもので、玉作りの工房から出土したものとしては国内最古。

1：垂飾未成品(滑石)、2～5：垂飾未成品、
6：垂飾未成品(ヒスイ)、7：珠状耳飾(ネフライト)。



境A遺跡出土玉類

朝日町／縄文時代中期～晩期

ヒスイの大珠が2点出土しているほか、丸玉・勾玉・垂飾等玉類がほかの遺跡と比較にならないほど、大量に出土している。

1～3：丸玉(ヒスイ)、4～9：垂飾(未成品含む)、10・11：勾玉、12・13：大珠(ヒスイ)



境A遺跡全景

広がるヒスイ

ヒスイの玉類は県内ののみならず、東日本を中心

に全国に広がります。それらは完成したものだけでなく、原石や未成品のまま各地に運ばれたものもありました。

県内では、早月上野遺跡（魚津市）や、北代遺跡（富山市）、二ツ塚遺跡（立山町）等、縄文時代中期～後期の遺跡からヒスイの大珠や玉類、その未成品が出土しています。



1cm



にしひら
西原遺跡出土大珠（左）、第5号住居跡（右）

南砺市（旧城端町）/縄文時代中期中葉～後期初頭。第5号住居跡は石組炉がある竪穴建物で、この近くから大珠が出土した。長さ約6cmのヒスイ製。白地に緑色が混じるヒスイを使っている。



はやつきうわの
早月上野遺跡遠景（左）、出土玉類（右）

魚津市 / 縄文時代中期～晩期

1: 大珠未成品（ヒスイ）、2・3: 管玉未成品（ヒスイ・滑石）、
4: 垂飾未成品（ヒスイ・後晩期）、5: 勾玉（ヒスイ・後期）、
6: 垂飾



1



2



2cm

3



ニツ塚遺跡出土玉類

立山町 / 縄文時代中期中葉～後期初頭。3には加工した痕跡（敲打痕）がある。

1・2: 大珠未成品（滑石）、3・4: 大珠未成品（ヒスイ）。

にさやま
下山新遺跡出土玉類

朝日町 / 縄文時代中期前葉～後期前葉

1: ヒスイ原石、2: 垂飾未成品（ヒスイ・4号炉付近出土・中期後葉？）、
3: 勾玉（1号住居跡出土・中期後葉）。

玉作りの道具

玉の製作工程

石の玉を作るには次のような段階があったとされています。

材料となる石材を用意し、①まず加工しやすいように手ごろな大きさに分割します（荒割）。②さらに大まかな玉の形に分割していくます。（形割とも言います。）③次に表面の凸凹を無くし表面を滑らかにして形を整えます。（調整工程）④次に孔を開けます。（穿孔）。⑤最後に表面を光沢がでるくらいに磨きます。（仕上げ）。これらは磨製石斧や骨角器の製作工程と共通するものが多いです。

玉をつくる道具

この様な段階に皮じて様々な道具が使われていました。また、石器や骨角器を作る道具と共に通するものが多いです。

①石を分割する道具

石を分割するには材料となる石に直接打撃



擦切石器の使い方



敲石と敲打痕



丸玉と筋砥石

②形を整える道具

を加える方法と石に溝を付け薄くなつたこの部分に彫や鑿の様なものを当て打撃を加える方法とがあります。

敲石(叩石)

手に握って打撃を加えるための石器で、棒状や球状の手ごろな石を利用し、あまり加工はされていません。表面には打撃を加えた痕跡が残ります。

擦切石器(石鋸)

押し引きすることによって石に溝状の切れ目を入れる石器で、板状あるいは二枚貝の貝殻状で片方の縁が薄くなり摩滅しています。

彫・鑿 棒状の鉄器で先端に刃があり反対側を槌で敲いて使用します。

砥石

こすりつけることで研磨する石器。研磨するものを上に置いて動かす置砥と手に

もつて研磨するものに当てる提砥があります。また、目の細かさにより荒砥、中砥、仕上げ砥に分けられるようです。表面に溝があるものは筋砥石・玉砥石と呼ばれています。これに対し表面が平らなものは平砥と呼ばれます。

形を整えるには、表面を敲石でこつこつと敲いて済す方法と砥石にこすりつけて研磨する方法があります。

筋砥石

石を分割する道具と同じですが、石の表面をコツコツと敲きつぶして形を整えます。

③孔をあける道具

孔をあけるものは、突くものと回転させるものに分かれます。回転させるものはさらに、手で回す手揉み錐法の他、弓錐法、舞錐法等があります。弓錐法・舞錐法とともに火起こし方法として発達してきましたが、玉の穿孔方法にも应用されたと考えられています。

獨樂 朝日町浜山遺跡からは古墳時代の石製のコマが出土しています。錐先は形から棒錐と管錐に分けられます。棒錐には材質により石錐と鉄錐があります。

有孔球状土製品 繩文時代の遺跡から出土する有孔球状土製品(球状土製品)も弾み車ではないかとする説もあります。県内では、境A遺跡や滑川市本江遺跡から繩文時代後期・晩期の有孔球状土製品が出土しています。



管錐の痕跡



鳴子形木製品



鉄錐

石針(先端部拡大)

いしなせ
高岡市石名瀬A遺跡出土
(高岡市教育委員会所蔵)

石錐は打製のものと磨製のものがあります。弥生時代代管玉用の磨製のものは直接1mmでシャーブベンシルの芝のようで、石針とも呼ばれます。鐵錐は大陸から鐵が伝わる弥生時代以降見られるようになりました。

管錐 管状の錐で、大陸から鐵器が伝わった弥生時代以降は金属製のものがあつたと考えられます。繩文時代にも孔が未貫通のヒスイ製の大珠などにその痕跡が認められます。これは細竹や鳥類等の骨から錐先が作られたと考えられます。ヒスイに竹や骨で孔があけられないと思われますが、砂や金剛砂などを使いながらあけることができます。

鳴子形木製品 注目すべき道具として、上市町江上A遺跡出土の鳴子形木製品があります。当初、形が似ていてことから、鳴子ではないか

とされていましたが、白い粘土が付いていることから、玉作りで穿孔する際に玉を固定する木製品であると訂正されました。

④仕上げ磨きの道具

仕上げ磨きには形を整える段階よりも細かい目の砥石が使われたと思われます。

研磨剤 粉の研磨剤も使われていたようです。研磨剤には細かい砂や木の粉や様々な材料が使われたとされていますが、その中の一つに丹やベンガラ等の赤色顔料があります。玉作

り遺跡にある島根県史跡出雲玉作跡からは丹付着の玉未成品や新潟県寺地遺跡出土の丹塊が出土しており、仕上げの研磨剤に使用されていましたと予測されています。朝日町境A遺跡にも赤色顔料が付着する繩文土器の他に赤色顔料が付着する石皿や磨石があり報告書では水銀朱を生産していたとされています。作られた水銀朱は他の遺跡の状況から玉の研磨剤としての可能性もあるのではないかと考えられます。

⑤作業台

台石 多くの作業工程で作業台として用いられたと考えられた石器で、平たい大型の石です。加工はあまりされませんが、作業の際に表面の欠けた痕跡があります。

弥生時代

弥生時代に入ると縄文時代から続く勾玉に加え、朝鮮半島から伝わった管玉が現れます。石材が入手しやすい北陸では、各地で五を盛んに作るようになりました。

弥生時代の玉

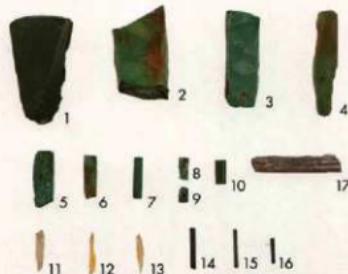
弥生時代には、渡来系の玉である円筒形で縫い孔がある管玉と、縄文時代から続く勾玉がアクセサリーの基本となります。どちらも規格性が高くなり、縄文時代から弥生時代の美意識の変化が読みとれます。



弥生時代後期のよそおい

(令和3年度 博物館実習生作成)

新しい文化の管玉と、縄文時代以来伝統の勾玉を組み合わせていました。管玉にはうす緑～濃い緑色、赤色のものがあり、組み合わせて使っていました。



江尻南遺跡出土玉類（高岡市教育委員会所蔵）

高岡市／弥生時代中期

この遺跡周辺で石材をタテに割る「新穂技法」(形割工程で上下端に溝が残る)が生まれ、新潟県へ伝わったと考えられている。

1～4：管玉未完成（形割工程）、5～7：管玉未完成（研磨工程）、
8・9：管玉未完成（穿孔工程）、10：管玉、11～13：打製石錐、
14～16：石針、17：石錐

弥生時代の玉作り

管玉作りは、弥生時代前期に山陰地方ではじまり、弥生文化の広がりとともに日本海側沿いに広がります。弥生時代中期に北陸に伝わり、後期にはより一層玉作りが盛んになります。富山県にも大規模な玉作り遺跡があります。ガラス小玉が現れるのもこの時期です。

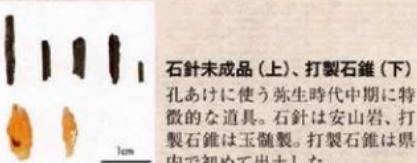
また、管玉には緑色凝灰岩、勾玉にはヒスイというように、玉の種類と石材に対応関係ができます。北陸では緑色凝灰岩に加え、赤色の鉄石英で管玉を作っていることも特徴です。

浦田遺跡出土玉類

舟橋村／弥生時代中期

川跡から玉作り関係の遺物が出土している。管玉の未完成には施溝分割の痕跡や石針による穿孔の痕跡が確認されている。

1～3：管玉未完成（形割工程）、4：管玉未完成（研磨工程）、
5～10：管玉



石針未完成（上）、打製石錐（下）
孔あけに使う弥生時代中期に特徴的な道具。石針は安山岩、打製石錐は玉髓製。打製石錐は県内で初めて出土した。

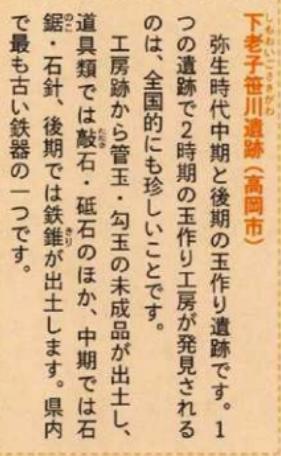
下老子 笹川遺跡出土管玉・道具類

高岡市 / 弥生時代中期

1～4：石錠（紅葉石膏岩）、5：石針（磨製石錐）、
 6：砥石、7～9：管玉、10～11：管玉未成品（穿孔工程）、12～14：管玉未成品（研磨工程）、15～
 27：管玉未成品（形割工程）、28～29：管玉未成品（荒削工程）



下老子 笹川遺跡



下老子 笹川遺跡出土鉄錐

高岡市 / 弥生時代後期

(左) 鉄錐外観、(右) 鉄錐X線写真



下老子 笹川遺跡出土玉類

高岡市 / 弥生時代後期

管玉は緑色凝灰岩に加え、赤色の鉄石英も材料としている。勾玉はヒスイに加えて、滑石もよく使う。鉄の道具類が伝わり、石錠や石針は姿を消し、効率よく玉を作るようになった。

江上A遺跡(上市町)^{えりがみ}

弥生時代後期の遺跡で、大溝や竪穴建物の周りの溝から、勾玉・管玉の原石や未成品、砥石等の道具類も出土しました。特に「鳴子形木製品」という玉に孔をあける時の固定に使う木製品は、全国初の発見でした。



江上A遺跡全景

写真右にある竪穴建物の周溝や中央の大溝から玉作り関係の遺物が出土した。



1cm

江上A遺跡出土玉類

上市町／弥生時代後期。管玉・勾玉の各工程の未成品が出土している。特にヒスイの勾玉(上の写真)は、淡い緑色で、美しい。

1～3：緑色凝灰岩、4：鉄石英、5：玉髓、6～12：勾玉未成品(ヒスイ・荒削工程)、11～18：管玉未成品(緑色凝灰岩・形割工程)、19～22：管玉未成品(鉄石英・形割工程)、23～26：勾玉未成品(ヒスイ・研磨工程)、27～33：管玉未成品(研磨工程)、34～39：管玉未成品(穿孔工程)、40～41：管玉、42・43：白玉未成品(ヒスイ・水晶)、44：ガラス小玉、45～49：勾玉(ヒスイ・滑石等)



うわの
上野遺跡出土玉類(左)、玉作り工房跡(上)

射水市／弥生時代後期。丘陵部で玉作りが行なわれた珍しい遺跡。1・2は縄文時代、3～6は古墳時代。

1：大珠、2：管玉(滑石)、3：ガラス玉、4・5：勾玉模造品(滑石)、6～9：勾玉、10・11：勾玉未成品(形割・荒削工程)、12～14：管玉(緑色凝灰岩)、15・16：管玉(研磨工程)、17～20：管玉未成品(形割工程)、21・22：管玉未成品(荒削工程)。



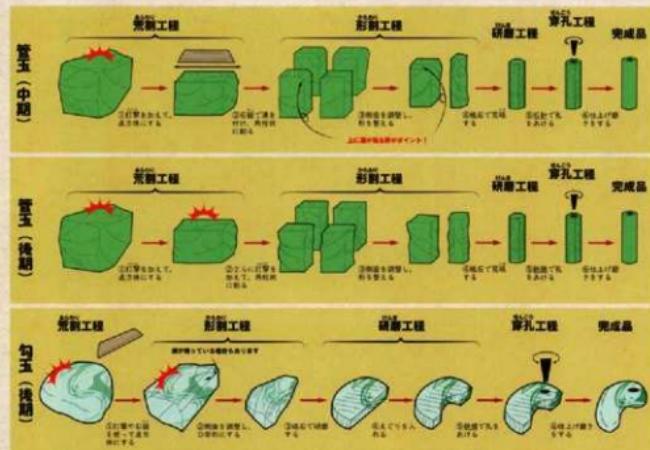
弥生時代の技

弥生時代の玉は、縄文時代よりも規格性が高く、石材の加工も効率的なものになりました。五作りの遺跡からは、「荒割工程」、「形割工程」、「研磨工程」、「穿孔工程」の各工程の未完成品が出土します。弥生時代の玉作りについて少しご紹介します。

弥生時代中期の玉作り

弥生時代でも時期によつて使う工具が異なります。中期には石の道具を使います。石材を割る工程では「石鋸」を使います。板チョコのように、溝を切つて打撃を加え、角柱状に割ります（「施溝分割技法」）。荒割・形割工程にこの時の溝が残っています。

また、穿孔工程では、シャーベンの芝ほどに細くした「石針」（磨製石錐）や玉髓を加工した「打製石錐」を使います。石針で孔をあける際は研磨剤が必要で、孔の内部に条線としてその痕跡が見られます。



弥生時代の玉作り（上：弥生時代中期、中・下：弥生時代後期）

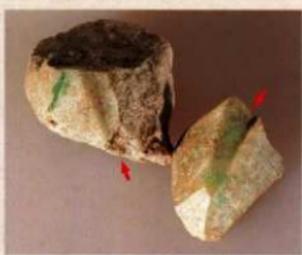
後期になると、玉作りの工具に鉄が加わります。「鉄錐」で孔をあけることで、石針を作らなくてもよくなり、玉作りに専念でできるようになりました。研磨剤が不要となり、孔の内部の条線は見られなくなります。さらに、クサビ形の鉄製品も登場し、溝を切らなくても、打撃だけで石を割ることができるようになります。

弥生時代後期の玉作り

一方、ヒスイは依然として溝を切つて割る必要があります。溝が残る荒割・形割工程品もあります。古墳時代には、ヒスイの原石を一周するように溝を切る「浜山技法」もあり、鉄を以てしてもヒスイを思い通りに割ることは難しかったのでしょうか。



緑色凝灰岩の擦切溝（下老子笛川遺跡・3Dデータから作成）



ヒスイの擦切溝（江上A遺跡）

古墳時代

弥生時代から引き続き、勾玉や管玉が基本です。玉類は主に古墳の副葬品として、遺体とともに埋められました。玉の種類や材質のバリエーションも増えました。

古墳時代の玉作り

富山県では弥生時代と比べると玉作りの規模や遺跡の数は減少し、小さな玉作り遺跡が数か所見つかっている程度です。

石材に注目すると、縄文時代以来、再び滑石がよく使われるようになります。管玉には鉄石英が使われなくなり、勾玉にはヒスイや滑石を主に使います。

弥生時代の玉作り遺跡が発見されていないヒスイ海岸がある朝日町では、古墳時代中期に滑石とヒスイの玉作りが行われました。



古墳時代の
よそい
(令和3年度
博物館実習生作成)

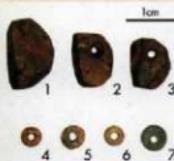
管玉は太いタイプが現れ、勾玉はより丸みを持ち、大型になります。古墳から数百点出土することもあります。



竹内東芦原遺跡出土玉類

舟橋村／古墳時代前期。1はSI01、2～9はSI04から出土。

1:勾玉、2:勾玉未成品(研磨工程)、3～5:緑色凝灰岩(荒削工程)、6:ヒスイ(形割工程)、7～9:ヒスイ(荒削工程)



浦田遺跡出土玉類

舟橋村／古墳時代。1～3・7は堅穴建物の周溝出土。全て滑石。



大江遺跡出土勾玉
射水市／古墳時代



下老子笛川遺跡出土勾玉

高岡市／古墳時代。滑石



浜山遺跡出土玉類

朝日町／古墳時代中期。ヒスイ海岸に面した丘陵にある遺跡で、工房内の土坑からヒスイが「満天の星の如く無数に」出土しています。古墳時代のヒスイ勾玉の製作方法が全国で初めてわかった遺跡で、ヒスイに浅い溝を一周させて削る技法は「浜山技法」と命名されています。

1～3:切子玉、4～6:管玉、

7:勾玉(全て未成品)

いのりとまじないのたま

遺跡から発見される「たま」には呪術的な雰囲気を感じられるものもあります。普通使わない素材で作ったり、特殊な形をしていたり、わざわざバラバラにされた「たま」も見つかっています。「たま」には単に美しいアクセサリー以上の意味があったのです。

死者への祈り

縄文時代

亡くなつた人の冥福を祈るとき、私たちは棺や墓前に花や物をお供えします。何かを供えて故人を偲ぶ行為は、縄文時代の人々も行つていたようです。

小竹貝塚では、生前愛用したと思われる道具やアクセサリーと一緒に埋葬された人骨が発見されています。また、人骨が残らない土壤の遺跡でも、玉類が土坑や、土器から出土する場合等、ほかの遺跡との比較によつて、墓と推定できる遺構があります。今となつては遺構の性格をつかむのは難しいですが、ここではそのような「祈り」を感じられる玉を紹介します。



玦状耳飾出土状況

富山市／縄文時代前期。下写真1・2が出土した土坑 (SK1125)

平岡遺跡（富山市）

縄文時代前期後葉の遺跡で、居住域の内側に墓域（土坑や埋設土器）があり、玉類の多くがここから出土しています。これまで平岡遺跡で見つかった玦状耳飾の総数は77点を数え、玉作り遺跡を除くと圧倒的に点数が多いのが特徴です。



平岡遺跡出土玉類

富山市／縄文時代前期後葉。1・2は土坑、7・8、11・12は埋設土器から出土。

1～3：玦状耳飾（滑石）、4：玦状耳飾未成品（透閃石岩）、5：玦状耳飾（透閃石岩）、6～10：管玉（滑石）、11・12：丸玉（滑石）。

小竹貝塚（富山市）

縄文時代前期後葉の貝塚が見つかった

遺跡です。埋葬された人骨のそばから玉類をはじめとした副葬品が出土しています。

女性の人骨には、叩石（木の実を割る道具）や玦状耳飾、鳥骨製管玉が、男性の人骨には磨製石斧や砥石、石匙（木を切つたり、動物を解体する道具）、牙玉や鹿角で作られた垂飾が一緒に出土します。

これらは生前愛用していたり、従事していた生業を表し、玉類からは女性と男性で身に着けるアクセサリーが異なることがわかります。

男性のよそおい (令和3年度 博物館実習 生作成)

26号人骨の生前の姿を復元しました。青年男性で、クマの歯牙を牙玉にしています。牙玉は2個1組で見つかっており、男らしさや力強さの象徴だったと考えられます。



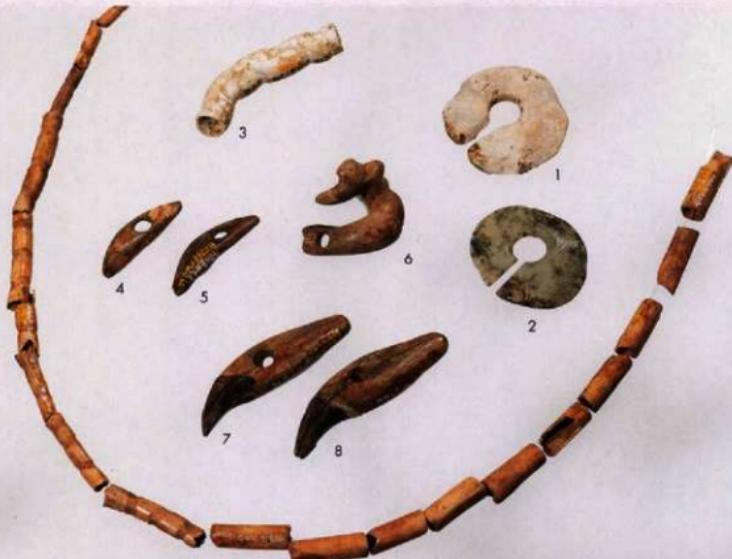
25号人骨（青年女性）



26号人骨（青年男性）



71号人骨（老年女性）



埋葬人骨から出土した玉類

1・2：玦状耳飾（滑石、25号・青年女性）、3：管玉（ゴカイ接着）、4・5：牙玉（オオカミ）、6：垂飾（鹿角、14号・成人男性）、7・8：牙玉（クマ、26号・青年男性）、9：管玉（鳥骨、71号・老年女性）

浦山寺遺跡(黒部市)

縄文時代中期前葉～後期前葉の磨製石斧を作つていた石斧作りのムラです。有孔鍔付土器の中から、ヒスイの垂飾が小型土器とともに入った状態で出土しました。



浦山寺遺跡出土玉類

黒部市(旧宇奈月町) / 縄文時代中期。3が有孔鍔付土器の中から出土

1:玉斧未成品、2:垂飾未成品、3:垂飾(ヒスイ)



1

2

3



有孔鍔付土器の出土状況

布尻遺跡(富山市)

岐阜県境近くの神通川右岸にある、縄文時代早期

～晚期遺跡です。

縄文時代後期と考えられる2つの土坑からヒスイの玉(写真4・5)がそれぞれ1点ずつ出土しています。

布尻遺跡出土玉類

富山市 / 縄文時代中期～晩期。3の頭部には刻みが入る。

1～2・6:垂飾(滑石)、3:垂飾、4:垂飾(ヒスイ)、5:大珠(ヒスイ)。



竹林I遺跡出土垂飾(ヒスイ)

南砺市 / 縄文時代中期。表は自然の丸みを生かし、裏は削った時の形を留めている。



竹林I遺跡全景

奥の建物付近の土坑からヒスイの垂飾が出土した。

竹林I遺跡(南砺市)

南砺市西部(旧福光町)にある遺跡です。斜面に近い土坑からヒスイの垂飾が出土しました。出土した土器は縄文時代中期のものがほとんどで、この垂飾もこの時期のものと考えられます。

弥生時代後期になると、集落の周辺部や丘陵に、方形周溝墓（埋葬施設を開むよう溝を掘った墓）や土坑墓（埋葬施設だけの墓）といった墓を築きます。弥生時代終末期には、山陰地方の影響を受けた四隅突出型墳丘墓（ひきだしやせこぶちまき）のような大型の墳丘墓も現れます。

副葬品は、管玉・勾玉・ガラス小玉があり、西日本の墓からは大量に出土することがあります。不思議なことに富山県ではたくさんのお玉を作っているにも関わらず、墓からは数点ずつ見つかる程度です。

南太閤山Ⅰ遺跡（射水市）

射水丘陵の尾根上にある、弥生時代後期の墓（方形周溝墓・台状墓8基、土坑墓4基、土器棺墓2基）です。木棺が据えられた墓坑から、未成品を含む管玉・ガラス小玉・ヒスイの勾玉が出土しています。これら玉類は、遺跡の南にある上野遺跡で作られたようです。



南太閤山Ⅰ遺跡出土玉類

1・2: 5号墓第2主体部、3: 1号土坑墓、6~9: 3号方形周溝墓、10~13: 8号墓主体部、4・5・14~17: 4号土坑墓。

1~3・10~17: 管玉（緑色凝灰岩）。10~13は未成品）、4・5: 勾玉、6~9: ガラス小玉



南太閤山Ⅰ遺跡全景（東から）

左奥に現在の小杉流通業務団地が見える。



南太閤山Ⅰ遺跡8号墓主体部の管玉出土状況



圓山遺跡出土玉類

射水市／弥生時代後期。1・2は第3土坑墓、3は第2土坑墓から出土。

1・2: 管玉（緑色凝灰岩）、3: 勾玉（ヒスイ）

射水丘陵の北端にある、弥生時代後期の墓（方形周溝墓と土坑墓各4基）。発見当時、日本海側の方形周溝墓の北限を示すものとして注目され、県指定史跡として保存されています。

木棺が收められた土坑墓から、勾玉（第2土坑墓）や、管玉・鉄鎌（第3土坑墓）が出土しています。勾玉は抉りの部分がよく磨かれてガラスのような光沢があります。

古墳時代

古墳から出土する玉は、形や色の種類が弥生時代よりも多くなり、点数も増えます。薄い緑色をした管玉に加え、ヒスイや滑石、メノウ、石英等様々な色の勾玉が見つかっています。古墳時代後期には、弥生時代には少なかった青色や緑色のガラス小玉も目立つようになります。

また、玉ではありませんが、古墳時代前期には緑色凝灰岩の腕飾類（石鉤・鍬形石）、古墳時代後期には金環等の金属製装身具が副葬されることもあります。

小杉流通業務団地内遺跡群

射水市の古墳時代中期後半～後期の円墳からなる遺跡で、特にNo.3遺跡とNo.7遺跡に集中しています。

遺体が埋葬された主体部から、管玉・勾玉・白玉・ガラス等が出土しています。散乱しつつもまとまって出土していることから、棺の上に置かれたと考えられています。

特に、No.7遺跡2号墳・7号墳、

No.11遺跡8号墳で、滑石の白玉やガラス丸玉・小玉がまとめて出土しています。



小杉流団NO.11
遺跡8号墳

直径約8mの円墳で、ガラス小玉が大量に出土している。



小杉流団NO.3
遺跡7号墳

No.3遺跡からは8基の円墳が見つかっている。



1・2・4：白玉（滑石）、
3：勾玉、5：垂飾、
6：管玉（緑色凝灰岩）、
7：小玉（ガラス）・白玉（滑石）、
8：丸玉（ガラス）

小杉流通業務団地内遺跡群古墳出土玉類

1：No.7遺跡2号墳（第2主体部）、2：No.7遺跡3号墳、3：No.17遺跡1号墳、4：No.7遺跡2号墳（第1主体部）、5・6：No.3遺跡7号墳、7：No.7遺跡7号墳出土、8：No.11遺跡8号墳

基の古墳が見つかっています。

C古墳群には5基の方墳と円墳があります。C6号墳から鉄劍1点、銅鏡2面、勾玉3点（滑石系・ヒスイ・メノウ）、管玉27点（緑色凝灰岩）、棗玉234点（滑石系）、ガラス管玉1点、ガラス小玉15点、丸玉2点（琥珀）が出土しました。琥珀は東北地方で産出されるものです。

銅鏡は珠文鏡と内行花文鏡と呼ばれるものです。珠文鏡は4つに区画された中国でも珍しいタイプで、文様帶には中国産の赤色顔料が塗られていました。

C6号墳は古墳時代中期前半に築かれたと考えられています。刀劍類・鏡・玉という組み合わせで埋葬施設に副葬している県内唯一の例で、玉類も県内の中古墳で最も多い点で特徴です。



板屋谷内古墳群C6号墳



板屋谷内古墳群遠景

板屋谷内古墳群C6号墳出土品

高岡市／古墳時代中期

1：珠文鏡、2：内行花文鏡、3：劍、4：棗玉（滑石系）、5～28：管玉（緑色凝灰岩）、29：勾玉（滑石系）、30：勾玉（ヒスイ）、31：勾玉（メノウ）、32：丸玉（琥珀）、33：管玉（ガラス）、34～48：小玉（ガラス）

加納南古墳群（氷見市）

この古墳群には10基の円墳があり、古墳時代後期の10号墳から、須恵器、乳文鏡、鉄製品（農工具・文房具）とともに、玉類449点が出土しています。

玉類は、勾玉2点（玉髓・石英）、管玉14点（碧玉2・緑色凝灰岩12）、ガラス丸玉86点、ガラス小玉347点です。「これらは埋葬施設に散乱して見つかったことから、遺体の上に玉を散布する儀式が行われたと考えられます。

玉類の数が県内最多である点が特徴で、副葬品もすぐ隣の9号墳と全く異なり、9号墳の近親者が埋葬されたと考えられています。



加納南古墳群9号墳（奥）・10号墳（手前）



加納南古墳群須恵器蓋・勾玉出土状況



加納南古墳群遠景



加納南古墳群10号墳出土品

氷見市／古墳時代後期

1：勾玉（石英）、2：勾玉（玉髓）、3：ガラス小玉、4：ガラス丸玉、5：管玉（緑色凝灰岩）

大昔のまじない

古墳時代には、子持勾玉や玉類の模造品と
いった、特殊な玉が川跡から出土します。
これらは祭祀・儀式に使用された特別な玉
で、人々は、玉が持つ不思議な力で神とつ
ながり、一族の繁栄と土地の発展を祈った
と考えられます。

玉に不思議な力があるという考えは、その
後の日本神話にも取り入れられています。
(天岩戸神話の五百津真賀木)。中には、皇
室に伝わる「八尺瓈勾玉」や神社に奉納す
る「玉串」など、現代にその名残をとどめて
いるものもあります。

南太閤山Ⅰ遺跡(射水市)

古墳時代中期～古代の遺跡で、丘陵
のすぐ上に弥生時代の墓があります。

蛇行する川跡から、わざと破損させ
た小壺や赤く塗った土師器、木製祭祀
具(刀形)、石製品(子持勾玉・臼玉・
有孔円板)、ガラス小玉が出土してい
ます。これらは川岸から投げ入れられ
た祭祀具で、豊かな水の供給や、新田
開発に伴う水の配分を決める祭祀が
行われたと考えられています。



南太閤山Ⅰ遺跡出土玉類

射水市／古墳時代。

1：子持勾玉、2：有孔円板、3・4：臼玉(滑石)、5：ガラス小玉。

若宮B遺跡(立山町)

古墳時代後期の遺跡で、川跡の斜面か
ら、湧水や水辺の祭祀に伴って投げ入れ
られた子持勾玉やヒスイ原石が出土し
ています。

子持勾玉は、滑石で作られ、腹部に1
個、背に7個の子勾玉を持ち、頭部に孔
が1つあります。県内では3例しか
見つかっていない特殊な玉で、この子持
勾玉は、その中でも最も状態が良く、美
しく磨かれ、丁寧な作りをしています。



子持勾玉出土状況

若宮B遺跡出土子持勾玉

中谷内遺跡（水見市）



水見市中谷内遺跡C2地区全景（東から）

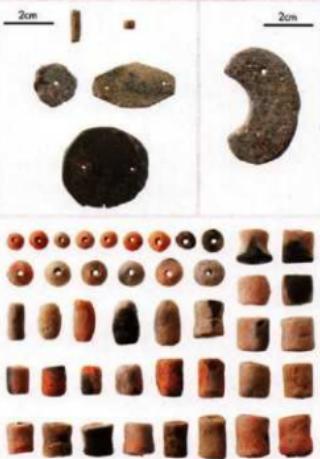
堅穴建物6棟と調査区を南北に継断する川跡が見つかった。川跡からは祭祀遺物が大量に出土している。



中谷内遺跡出土品

中谷内遺跡出土玉類

左上：管玉・臼玉・有孔円板、右上：勾玉模造品、下：土玉。



水見平野の奥にある古墳時代後期の遺跡です。川跡から、土師器・須恵器、鳥形土製品等の祭祀遺物が出土し、玉類では、管玉や臼玉のほか、勾玉や鏡の模した石製品、管玉や丸玉を模した土玉があります。

玉や鏡の模造品は賢木に掲げて使う、神を招き寄せる祭祀具と考えられています。降りてきた神に食物を供え、神から与えられたものを人々が共食し、土地の繁栄や人々や結束を祈つたものと考えられます。



中名II遺跡出土丁字頭勾玉

同欠損部拡大
切断した痕跡がある。

丁字頭勾玉は、頭部に複数の溝を刻んだ勾玉で、弥生時代の九州北部や古墳時代の近畿地方で主に出土します。中名II遺跡（富山市）の丁字頭勾玉は、包含層から単独で見つかったものです。

鮮やかな緑色をしたヒスイ製で、ガラスのように丁寧に磨かれています。2本1セットの溝が、頭部に4本、頭部に2本彫られています。その形から古墳時代のものと考えられています。この資料のおもしろいところが、尾部を意図的に切断している点です。周辺に古墳ではなく、なぜここにあるのか、なぜ尾部を切断したのかはよくわかつていません。

コラム3

丁字頭勾玉

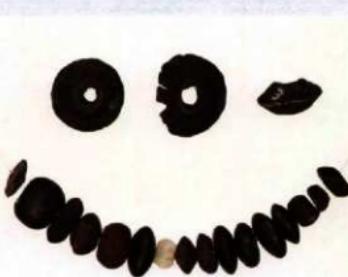
くらしとあそびのたま

官位や服飾等、玉以外に社会的な地位を示すものができたため、古代以降アクセサリーとしての玉は姿を消します。「たま」は後の時代にもみられますが、生活中に溶け込んでいるものがほとんどです。くらしやあそびの中にある「たま」を見つけていきましょう。

くらしの中の「たま」

古墳時代を最後にアクセサリーとしての役割を失い、遠い存在になってしまってからです。小さく、丸い道具や部品を指して「たま」という名前が付けられています。また、中国の焼物の文様にも、縁起物としてしばしば「たま」が表現されることがあります。

武器としての「たま」は、古くは戦国時代の遺跡から火薙銃の鉛玉が出土しています。近現代には富山県内に軍隊の演習場があったため、現在でも当時使われていた鉄砲の弾を拾うことができます。



石名田木舟遺跡出土算盤玉・数珠玉

高岡市・小矢部市／戦国時代。算盤は室町時代に中国から伝わった計算補助道具、数珠玉は念佛を唱えたり、仏に祈る仏具。水晶の数珠玉1点を除き、本製品。



石名田木舟遺跡出土玉取獅子文青花皿

高岡市・小矢部市／戦国時代。玉と獅子が遊んでいる様子をあらわす縁起が良い文様(灰色部は復元した箇所)。



中尾新保谷内遺跡出土「金玉满堂」銘青磁碗

水見市／中世。金や玉で當が満杯になるようにという願いをが込められた縁起の良い銘。

立野原陸軍演習場(南砺市)

明治32年(1899)、立野原(たのばる)ヶ原(現在の城端SA周辺)に整備された、金沢の陸軍第九師団の演習場。農地となつた今も、この時の弾が落ちており、砲弾の性能を確認する「立野原監的壠」(市指定文化財)も2基残っています。旧福光町にあるものは通称「目玉監的壠」と呼ばれています。



立野原監的壠(通称・目玉監的壠)
南砺市/昭和3年改修



2cm

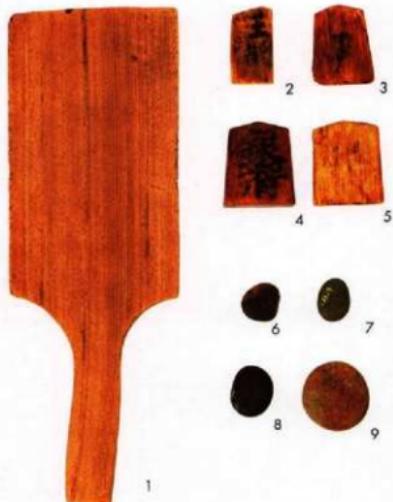
立野原陸軍演習場出土弾頭

上:三八式小銃実包、中:九二式普通実包、下:散弾



小杉流団No.20遺跡出土サイコロ形木製品

射水市/奈良時代~平安時代
双六等の遊戯で、2個1組で使用したと考えられている。全国的にみても出土例は多くない。



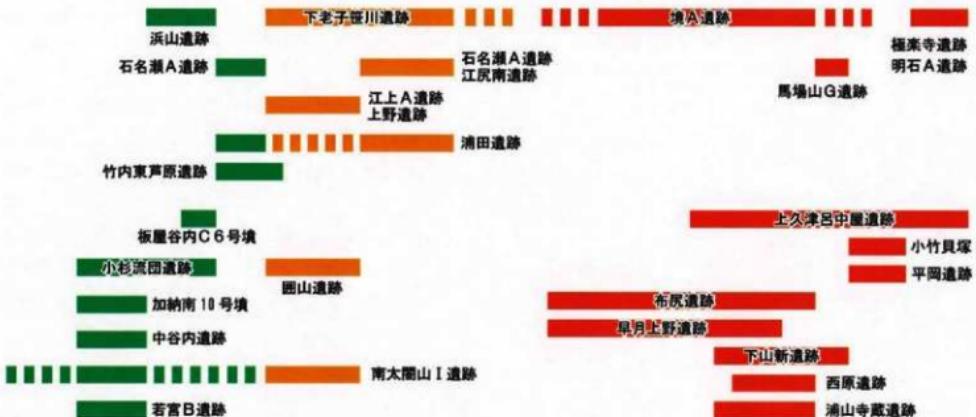
戦国時代のあそび・たしなみの道具

1:羽子板、2~5:将棋駒、6~9:碁石(1は梅原胡摩堂遺跡、2~9は石名田木舟遺跡出土)。羽根突きは室町時代ごろに成立し、羽のついたムクロジを打ち合う。「王将」はもともと「玉将」で、奈良や福井で出土している。今でも腕前が劣る方が「玉将」を使うことがある。碁石は五目並べが近代に競技化した連珠では「珠」と呼ぶ。

けん玉やお手玉等、昭和の子供のあそびには「たま」に関係するものが多いと気づきます。縁日ではスーパー・ボーリーもしくいや射的等もあります。「たま」に所縁のあるあそびは、もつと昔からあります。
富山県で出土している古いあそびの道具は古代のサイコロです。1~4本の線が描かれています。中世には、あそびの道具がたくさん出土するようになります。羽根突きがたくさん出土するようになります。羽根突きに使う羽子板や、将棋の駒(玉将が転じてできた「王将」)、碁石等があります。

あそびの中の「たま」

1,500年前	2,000年前	3,000年前	5,000年前	10,000年前	15,000年前	
飛鳥	古墳時代	弥生時代	縄文時代	旧石器		
後期	中期	前期	後期	中期	前期	
仏教が伝わる。 横穴墓が広まる。	朝鮮半島から須恵器が伝わる。	富山県最古の鉄器（圓山遺跡）。 富山県の玉作りの最盛期。 卑弥呼が邪馬台国をおさめる。	富山県に稻作が伝わる。 山陰地方で玉作りが始まる。	大陸から稻作が伝わる。	大規模なムラが増加する。 ヒスイの玉を作り始める。 縄文海進のピーク	块状耳飾を作り始める。
富山県最古の須恵器窯 (園カシナデ窯跡)						土器が発明される。 弓矢が登場する。





勾玉

C字形に湾曲した玉。縄文～古墳時代にかけて作られた、最もよく知られている玉。



大珠

垂飾のうち、特に大きく丸みのある橢円形の玉。縄文時代中期に現われる。特にヒスイ製のものをいう。



玦状耳飾

中央に孔があき、1箇所に切れ込みを入れる、環状の扁平な玉。縄文時代早期～中期に作られた。



丸玉

ほぼ球形で中央に孔がある玉。縄文時代後期・晩期にヒスイ製の丸玉が盛んに作られる。



牙玉

クマやオオカミ等動物の歯根に孔をあけた玉。勾玉の原形ともいわれる。



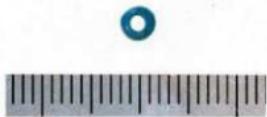
垂飾

紐を通して垂らして使う玉の総称。決まった形がない、不定形なもの指すことが多い。



管玉

円筒形で、縦方向に孔があいている玉。弥生時代を代表する玉で、北陸で盛んに作られる。



小玉

丸玉のうち小型のもの。弥生時代～古墳時代のガラスの玉を指して使うことが多い。



白玉

管玉を薄く輪切りしたような形をした小型の玉で、平らな上面から孔があけられる。

この他に、切子玉やトンボ玉などたくさんの種類があります。ここに紹介しているものは富山県で出土する主な玉の種類です。

名称(英語)	写真	色	硬度	特徴
ヒスイ (Jadeite)		白色・ 緑色等	6.5 ~ 7	別名硬玉ともいいう、非常に硬く、割れにくく、脆い岩石。ヒスイ輝石とオンファス輝石からなる。白色、緑色、白地に緑色の斑点のものがあり、オンファス輝石に含まれる鉄(Fe)やクロム(Cr)が緑色の原因。 軟らかい色をした軟玉(ネフライト)もヒスイに含まれることがあるが、角閃石族の種類の違う岩石である。
滑石 (Talc)		灰色・ 褐色等	1	主にマグネシウム(Mg)とケイ素(Si)からなる不透明な岩石。色は緑色、灰色、白色、褐色等様々あるが、玉の材料としては褐色のものがよく使われる。にぶい光沢をもち、やわらかく加工しやすい。
石英 (Quartz)		白色・ 透明等		石英は最も身近な鉱物として知られている。ケイ素(Si)と酸素(O2)からなり、鉄(Fe)など微量成分によって、岩石の色や性質が変化する。石英のうち無色透明なものは水晶といい、宝石として知られている。
碧玉 (Jasper)		暗緑～ 緑色	7	石英のうち、酸化鉄を含み不透明なものを碧玉という。考古学では、特に濃い緑色をしているものをさして碧玉と呼んでいる。碧玉の中には、緑色凝灰岩などその他の岩石を含む場合もあり、区別されていないこともある。
鉄石英 (Ferruginous Quartz)		赤色～ 褐色		碧玉のうち、三二酸化鉄(Fe2O3)を含んで赤色を呈するものを鉄石英という。鉄石英は古くからの石器の材料である。
緑色凝灰岩 (Green Tuff)		淡緑色		火山灰が堆積して固まった岩石。凝灰岩は灰色のものが多いが、堆積した時に熱水にさらされたため緑色になったとされる。日本海沿岸で広く見られ、グリーンタフともいう。比較的柔らかい岩石である。

*碧玉と緑色凝灰岩はよく似ており、本展及び図録本文では区別せず「緑色凝灰岩」とします。

主な参考文献

富山県教育委員会（編）、富山県埋蔵文化財センター（編）

1969「勾玉の故郷 はまやま」

1970「团山遺跡 小杉町团山遺跡緊急発掘調査報告書」

1975「富山県城端町西原遺跡第2次緊急発掘調査概報」

1979「富山県小杉町流通業務団地No.20遺跡緊急発掘調査概要」

1980「富山県福光町竹林I遺跡緊急発掘調査概要」

1980「小杉流通業務団地内遺跡群第2次緊急発掘調査概要」

1982「小杉流通業務団地内遺跡群第3・4次緊急発掘調査概要」

1982「北陸自動車道遺跡調査報告—上市町土器・石器編一」上市町教育委員会

1983「小杉流通業務団地内遺跡群第5次緊急発掘調査概要」

1983「都市計画街路 七美・太間山・高岡線内遺跡群発掘調査概要」

1984「都市計画街路 七美・太間山・高岡線内遺跡群発掘調査概要(2)」

1990「北陸自動車道遺跡調査報告—朝日町幅5-境A遺跡」

1992「大門町企業団内遺跡発掘調査報告(2)布目沢北遺跡第3次調査」

2000「富山県舟橋村浦田遺跡発掘調査報告(3)」

富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所（編）

2006「下老子笛川遺跡発掘調査報告」富山県文化振興財団埋蔵文化財発掘調査報告31

2009「中尾茅戸遺跡・中尾新保谷内遺跡・神明北遺跡・大野江淵遺跡発掘調査報告」富山県文化振興財団埋蔵文化財発掘調査報告41

2012「早月上野遺跡発掘調査報告」富山県文化振興財団埋蔵文化財発掘調査報告51

2013「白石遺跡・大江東遺跡・大江遺跡・愛宕遺跡・今開発東遺跡・今開発遺跡・三ヶ・本開発遺跡」富山県文化振興財団埋蔵文化財発掘調査報告53

2013「上久津呂中屋遺跡発掘調査報告」富山県文化振興財団埋蔵文化財発掘調査報告55

2014「下老子笛川遺跡・江尻遺跡発掘調査報告」富山県文化振興財団埋蔵文化財発掘調査報告59

2014「加納南古墳群・稻積才オヤチ古墳群発掘調査報告」富山県文化振興財団埋蔵文化財発掘調査報告63

2014「稻積天坂遺跡・稻積天坂北遺跡・稻積才オヤチ南遺跡・宇波西遺跡発掘調査報告」富山県文化振興財団埋蔵文化財発掘調査報告64

2015「平岡遺跡発掘調査報告」富山県文化振興財団埋蔵文化財発掘調査報告65

福井県立博物館（編）

1994「北陸の玉 古代のアクセサリー」

高岡市教育委員会（編）

1995「石塚遺跡調査標報Ⅲ」高岡市埋蔵文化財調査標報第27冊

2007「石塚遺跡調査報告」高岡市埋蔵文化財調査報告第17冊

2017「江尻南遺跡調査報告」高岡市埋蔵文化財調査報告書第27冊

岩永省三

1997「弥生時代の装身具」「日本の美術」370 至文堂

木下亀城・小川留太郎

1967「標準原色図鑑全集」第6巻

町田章

1997「古墳時代の装身具」「日本の美術」371 至文堂

中野由紀子

2003「富山県における弥生時代の玉生産と消費」「石川県埋蔵文化財情報」第10号 (財)石川県埋蔵文化財センター(株)雄山閣（編）

2004「季刊考古学(特集縄文時代の玉文化)」第89号

2006「季刊考古学(特集弥生・古墳時代の玉文化)」第94号

2019「身を飾る繩文人 一副葬品から見た繩文社会ー先史文化研究の新展開2

島根県立古代出雲歴史博物館（編）

2009「輝く出雲ブランド 古代出雲の玉作り」

宮島宏

2019「翡翠ってなんだろう2019」フォッサマグナミュージアム

河村好光

2000「ヒスイ勾玉の誕生」「考古学研究」第47卷第3号(通巻187号) 44-62頁

2020「ヒスイ勾玉再考」「古文化論叢」九州古文化研究会 167-196頁

協力機関・個人（敬称略）

高岡市教育委員会

朝日町まいぶんKAN

令和3年度博物館実習生(9名)

令和3年度 特別展図録

珠・玉・球

私たちを魅了する たまとは

令和3年10月8日

編集・発行 富山県埋蔵文化財センター
〒930-0115 富山市茶屋町206番3号
TEL 076-434-2814
FAX 076-434-2859

印 刷 前田印刷株式会社

会 期 令和3年10月8日（金）～令和4年1月27日（日）